

酒々井健康プラン 改訂版 パブリックコメントのご意見・ご提言に対する対応について(令和7年3月)

ご意見・ご提言	改訂版 本編への追加、修正
<p><b>第4章 P24</b> 「高齢者の健康作り」の「主な取組」 げんき館は、高齢者と多世代の町民との交流を促進し、健康の維持及び生きがいを支援するとともに、住民福祉の増進を図るために開設されたが、これは取り組みに該当しないのか。</p>	<p><b>第4章 P24</b> 「高齢者の健康づくり」「〈主な取組〉」に次の項目を追加します。</p> <p><u>◇交流拠点施設げんき館では、高齢者と多世代の町民との交流を促進するため、体操、交流会等を開催し、いつまでも元気な暮らしを楽しむことができるよう支援しました。</u></p>
<p><b>第6章 P81</b> 【課題と方向性】【行政の取組】は、食習慣に関する記載しかない。しかし、P78の朝食を食べない理由で、「食べるものがない」が、町民アンケート調査で3.1%、中学生アンケート調査で5.0%もある。「食べるものがない」という答えの背景には、食習慣の問題ではなく、経済的困窮、ネグレクトなどの可能性が考えられる。正しい食育をするためには、栄養を考えた食材を購入できる余裕のある経済状況が必要であるし、子どもの健康に配慮する保護者の意欲が必要である。これらは、食習慣に関する啓発活動では対応できない。そのため、例えば、「行政の取組」として、「どの世帯でも正しい食習慣づくりをすることが出来るように、適切な支援を図ります」などの文言を入れ、家庭の問題に対処することを計画に入れることが必要だと思う。</p>	<p><b>第6章 P81</b> 【行政の取組み】を次のように修正します。</p> <p>②栄養バランスのとれた食事、野菜の摂取、減塩を意識した食習慣を身につけられるよう、正しい知識の普及啓発<u>及び情報提供、相談支援を行います。</u></p>
<p><b>第8章 P107</b> 【行政の取組】に、「② 心身のリスク、経済的なりスク、社会的リスクなど生活上のさまざまなリスクを抱える人の負担を軽減するため、相談窓口の周知・充実、就労・生活面における自立促進などを図ります。」とあるが、「就労・生活面における自立促進」というフレーズが気になる。「就労・生活面における自立促進」は、生活困窮者自立支援制度の活用により、しっかりとサポートをして、最終的に「自立」を実現するという意味だと思う。しかし、「自立促進」という言葉は、その人の力だけでなんとかするという印象を与える言葉であることから、別の言葉を用いる方が適切だと思う。適切な言葉が思いつかないが、例えば、「継続的な支援」「サポート」など、その人を支えるというイメージがある言葉を用いる方がいいと思う。</p>	<p><b>第8章 P107</b> 【行政の取組み】を次のように修正します。</p> <p>②心身のリスク、経済的なりスク、社会的なりスクなど生活上のさまざまなリスクを抱える人の負担を軽減するため、相談窓口の周知・充実、就労・生活面<u>の自立に向けて支援を行います。</u></p>